

# LITTERAE POPULI

北海道大学の今を伝える広報誌、リテラポプリ

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/>

発行：北海道大学 総務企画部広報課  
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
Tel: 011-706-2902 Fax: 011-706-2092  
E-mail: kouhou@jimu.hokudai.ac.jp







Litterae Populi

『リテラポプリ』は、北海道大学の“今”を伝える広報誌として、年2回発行します。題名の“Litterae Populi”はラテン語で「ポプラの手紙」を意味します。

目次

03 **特集** 挑む。

- 04 大学院生命科学院ソフトマター専攻/国際連携研究教育局  
ソフトマターグローバルステーション
- 10 観光学高等研究センター
- 12 理学研究院附属地震火山研究観測センター  
有珠火山観測所

14 対談「総長が訊く」

シチズン時計株式会社専務取締役  
佐藤 敏彦

20 研究室訪問「研ぐ」

遺伝子病制御研究所  
病態研究部門 分子腫瘍分野 教授  
藤田 恭之

22 卒業生インタビュー「同窓異曲」

パーソナリティ  
蒲田 健

24 アンバサダー・パートナー通信

26 歴史紹介「挑戦の140年」

28 トピックス

30 キャンパス風景

リテラポプリ 61号 2018年9月発行

編集/リテラポプリ編集チーム

- 寒川 美奈 (保健科学研究所)
- 井上 高聡 (大学図書館)
- 黒岩 麻里 (理学研究院)
- 菅原 広剛 (情報科学研究科)
- 富成 絢子 (メディア・コミュニケーション研究院)
- 山本 学 (情報科学研究科)
- 野口 明広 (広報課)

カバーフォト/山本 顕史 (ハレバレシャシ)

写真/寺島 博美 (コトハ写)

制作協力/佐藤 守功 (佐藤守功デザイン事務所)

印刷/株式会社アイワード

表紙撮影場所/札幌農学校第2農場

特集

# 挑む。

札幌農学校以来の基本理念の一つである「フロンティア精神」。

北海道大学は、現在に至るまで脈々とその精神を受け継ぎ、140年余りの長い歴史を刻んできた。

新たな時代を迎え、世界的課題、地域課題の解決に向けて、今なお一層の挑戦を続ける北海道大学。

特集では「挑む」をテーマに、3つの試みを紹介する。



## 北海道大学とともに。

今号では、東南アジアにおいて北海道大学アンバサダー、パートナーとして活躍するとともに、リエゾンオフィス現地責任者代表を務めるクリストフォラ・ハニー・ウィジャヤ氏とエヴァンジェリン・カンシオ・アモール氏からの寄稿を紹介します。



1

2



1

2

### エヴァンジェリン・カンシオ・アモール氏

(フィリピン大学ディリマン校副学長・教授。2017年3月北海道大学パートナー就任)

北海道大学パートナーの委嘱を打診された時、大変光栄に思いました。特に現在進行中の北海道大学とフィリピン大学ディリマン校による「超小型衛星DIWATA-1プロジェクト」を通じて、両校の繋がりを強化・促進できることに高揚しました。

2018年3月、フィリピン大学ディリマン校に、北海道大学のリエゾンオフィスが開所しました。この種の施設は本校では初めてです。現在は本来の設置場所が改築中のため、国際リネージュ部(ディリマン校の学生・教職員と、海外協定校との国際

連携を扱う部門) オフィスの中に「北海道大学ヌーク(コーナー)」(仮称) が設けられ、学生が北海道大学について情報収集をしたり、両校の研究者や教職員がテレビ会議を行える設備を整えています。北海道大学ヌークは、学生の留学交流、教員やREPS (Research, Extension, and Professional Staff) の交流、大学間学術共同プログラムの創出など、国際リネージュ部の様々な活動にとっても有益です。

本学のあるケソンシティはフィリピンのマニラ首都圏最大の都市で、フィリピンの旧首都でもあります。札幌と

同様ケソンシティにも夏がありますが、札幌の夏の平均気温が約22℃なのに比べ、約33℃にもなります。また、札幌では四季をはっきり感じられますが、ケソンシティを含むフィリピンには夏と雨季の二つの季節しかありません。

北海道大学の皆さん、両校連携の大きな可能性をともに探っていきましょう。両校の関係がさらに深まる姿をこの目で見ることを楽しみにしています。Mabuhay!

### クリストフォラ・ハニー・ウィジャヤ氏

(ボゴール農業大学教授、北海道大学インドネシア同窓会会長。2016年9月北海道大学アンバサダー就任)

北海道大学アンバサダー就任の打診を受けた時、大変名誉に感じると同時に、自分に務まるだろうかと不安に思いました。その一方で、北大のために何かをしたい、キャリアの基礎となった母校に恩返しをしたい、という使命感を覚えました。北大が世界トップ100大学になるように尽力したいと思っています。

北海道大学では農業化学科で修士号と博士号を取得しました。北大で身につけたスキルはボゴール農業大学で教授になる基礎となり、また北大での日々は、私に夢とその夢を追うための道具を与えてくれました。私は今でも、愛と誠意、情熱、そして農学教育をもって最も大事な資源である“人”に投資し、より良い世界をつくるという夢を追い続けています。さて、北海道大学インドネシアリエ

ゾンオフィスは、ボゴール農業大学・ダルマガキャンパスに2017年に設立され、研究プログラムやサマースクール、交換留学、奨学金などに関する情報を提供しています。日々の運営はPARE\*やHUSTEP\*\*の修了生ら北大同窓生によるボランティアによって支えられています。今後、情報提供に留まらず、MoUの締結など、日尼両国の利益に資する具体的な成果をあげていくことを期待しています。

私は、美しく清潔で、親切な人々が住まう“暖かな”都市、札幌が大好きで、第二の故郷だと感じています。ボゴールには降雪がありませんから、美しい(しかしとても寒い!) “白銀の世界”を時々懐かしく思います。また、長い冬の後、若葉が芽吹き始める“春の訪れ”や、美しくロマンチックな紅葉の風景も大好きです。しかし今、コート

や除雪が要らないボゴールの生活も同じくらい恵まれていると感じています。

世界中の北大同窓生の皆さん、私たちは一つの輪、一つの大きな北大の家族です。家族の一員として互いに助け合いましょう。次の一步を共に踏み出すために、あなたからのコメントや提案をお待ちしています。

最後にクラーク博士の言葉を引用して終わります。“少年(そして少女)よ、大志を抱”こうじゃありませんか!! 頑張りましょう! よろしくお願いたします!

\*1 人口 (Populations) ・活動 (Activities) ・資源 (Resources) ・環境 (Environments) に関連する様々な問題を解決し、アジアの発展に主導的な役割を果たすことができるボランティア人材の育成を目指し、北海道大学とインドネシア・タイのパートナー校6大学が協働して実施しているプログラム。  
\*2 Hokkaido University Short-Term Exchange Program, 海外の協定大学の学部生を対象とした、英語による短期留学プログラム。



3



4

1. フィリピン大学ディリマン校の留学生たち  
(写真提供: フィリピン大学ディリマン校国際リネージュ部)  
2. フィリピン大学ディリマン校の象徴的建物であるケソンホール  
(写真提供: フィリピン大学ディリマン校国際リネージュ部)

3. ライトアップされたケソンメモリアルサークル公園の中央噴水広場  
(写真提供: ケソンシティ市政府、交流連携センター)  
4. 北海道大学フィリピンリエゾンオフィス開所式にて  
(写真提供: フィリピン大学ディリマン校国際リネージュ部)



3



4

- 北海道大学の教員と
- 北海道大学アンバサダー・パートナージャカルタ委嘱式にて
- 北海道大学インドネシアリエゾンオフィス開所式にて、スダ族の伝統舞踊ダンサー
- 北海道大学シンボルマーク入りバティックを着たリエゾンオフィスボランティア達と